TOSTEM トステム株式会社

カーブポートⅡ・カーブパーク（一般地域用）　取付け説明書

■施工される方へのお願い

●この説明書は施工完了後、施主様へお渡しください。
●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

⚠注意・・・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

⚠ 注　意

●製品破損による人への被害、物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください

■設置条件
●母屋の屋根からの雪が直接当たらない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。
●本製品は一般地域用です。積雪の多い地域には取り付けないでください。
一般地域用600タイプ…積雪20ｃｍ以下の地域
●本製品は地上階に取付ける設計となっております。2階以上の高所に取り付けると強風により製品が破損するおそれがあります。
●柱の移動は、当社指定範囲内にしてください。
●崖などの高低差のある場所には設置しないでください。
●風当りの強い場所及びサイドスクリーンを付ける場合は補助柱で製品の補強をするとともに、風にあおられない向きに取り付けてください。
（前枠を建物側に向けて設置してください。）
（例1）：丘陵地
（例2）：田畑・野原・風を妨げる物のない平地に隣接した場所や海岸沿い等

■部材の固定
●タッピンねじの下穴は、指定された下穴より太いドリルを使用しないでください。
●組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まぬように締め付けてください。
■施工時の足場について
●施工時はしっかりと足場を設け、転落などの危険がないよう注意してください。
■基礎について
●基礎は当社指定寸法以上にしてください。
●地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようご注意ください。
●寒冷地で凍上のおそれのある地域に取付ける場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。
●基礎には海砂及び急結剤・凍結防止剤を使用しないでください。柱が腐食するおそれがあります。
●養生期間は十分（４日～１週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないようご指示ください。
●柱には水抜き穴をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
■絶縁処理について
●アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する時は、絶縁処理をしてください。
■屋根パネルについて
●屋根パネルは当社指定の製品をご使用ください。
■施工について
●みだりに改造・変更（階段屋根・母屋への取付け・四周の囲い等）をしないでください。
●取付けは専門業者の方が行なってください。専門知識がない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
●シーリング指定個所には必ずシーリング材を充てんしてください。
●水平・垂直は正確に測ってください。直角が出ていないと施工に支障がでるおそれがあります。
●当社指定の付属品以外は取り付けないでください。

■お施主様へのお願い

⚠ 注　意

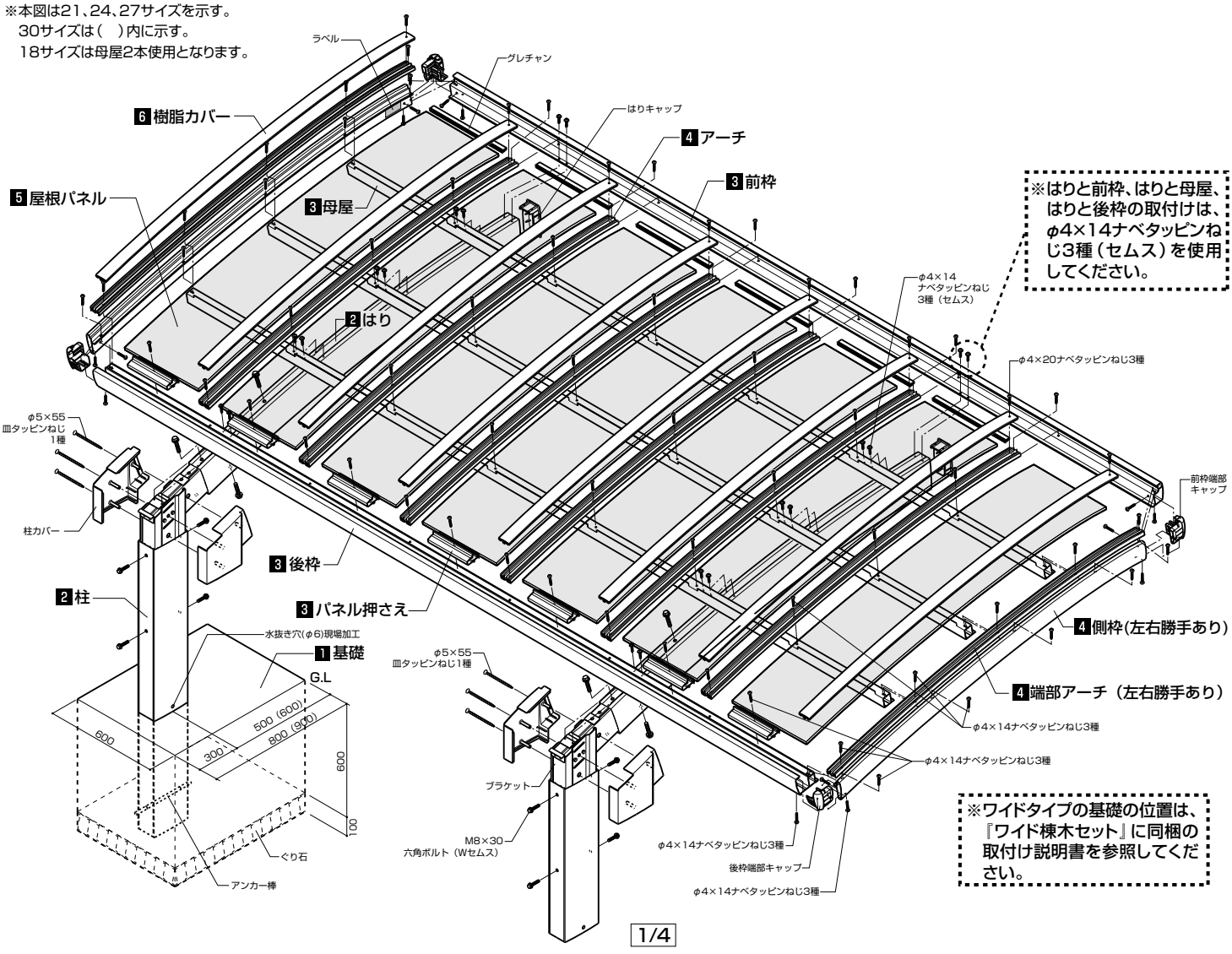
●屋根の上には絶対にのらないでください。転落するおそれがあります。
●積雪が20cmを超える前に雪おろしをしてください。製品破損による被害のおそれがあります。
雪の重さは雪の状態により大きく変化します。特に春先の雪は重く降雨や湿雪の後などは新雪に比べ3倍位の重さになります。
※積雪量1cmあたり3kg/m^2（比重0.3）で算出しています。（雪おろしの際、絶対に水をかけないでください。雪がさらに重くなります。）

お　願　い

●当社指定の付属品以外は取り付けないでください。
●屋根の上に物をのせないでください。
●ボルト・ナット・ねじ等は絶対に緩めないでください。
●積雪時・強風時には製品の補強のため、補助柱を使用してください。
●雪おろしの際、金属製のスコップ等を使用すると屋根材が割れたり傷つく原因になります。プラスチック製のスコップ等で静かに行なってください。

■構造説明図

※本図は21、24、27サイズを示す。
30サイズは（　）内に示す。
18サイズは母屋2本使用となります。

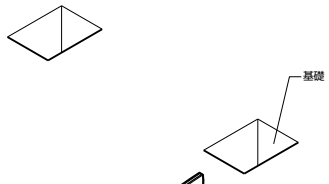


※はりと前枠、はりと母屋、はりと後枠の取付けは、φ4×14ナベタッピンねじ3種（セムス）を使用してください。

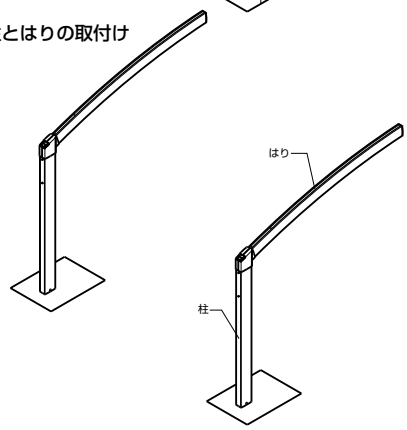
※ワイドタイプの基礎の位置は、『ワイド棟木セット』に同梱の取付け説明書を参照してください。

■組立て手順

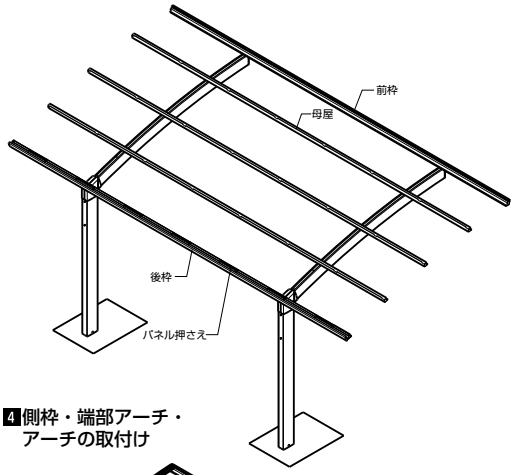
1 基礎の施工



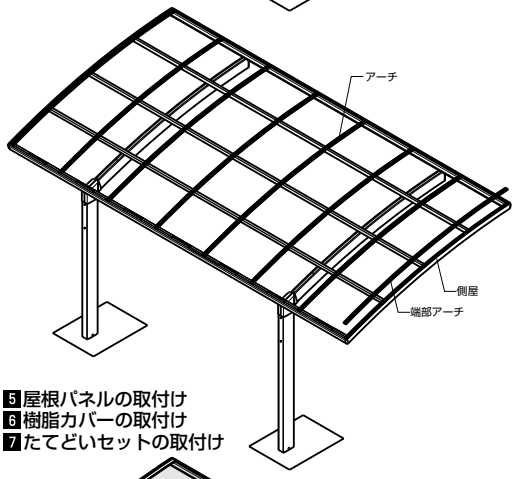
2 柱とはりの取付け



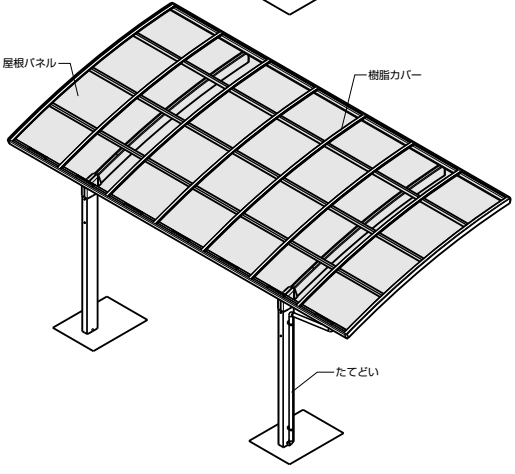
3 前枠・母屋・後枠・パネル押さえの取付け



4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け



5 屋根パネルの取付け
6 樹脂カバーの取付け
7 たてどいセットの取付け



■取付け手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。

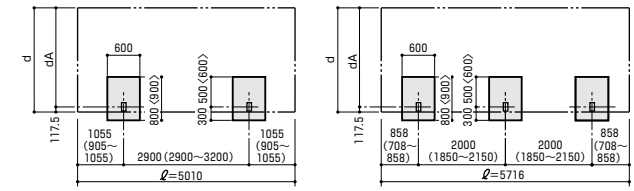
単位mm

サイズ呼称	d	dA
18	1777	1660
21	2073	1955
24	2403	2285.5
27	2709	2591.5
30	3000	2882.5

■墨出し位置

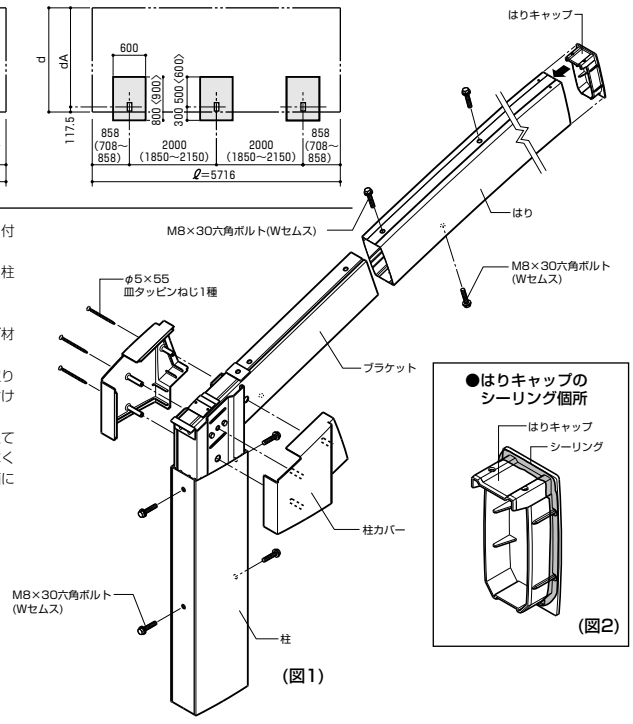
※(　)内寸法は柱移動範囲を示す。
※〈　〉内寸法は30サイズの基礎穴寸法を示す。

50サイズ　　57サイズ



2 柱とはりの取付け(図1参照)

①柱にブラケット・アンカー棒をそれぞれ取り付け、柱を建て込みます。
②はりをブラケットに取り付けます。その後、柱カバー・はりキャップをそれぞれ取り付けます。
※はりキャップを取り付ける際は、シーリング材を充てんしてください。(図2参照)
※はりキャップは、前枠を取り付けた後では取り付けられません。必ず、前枠より先に取り付けてください。
※「使用上の注意」ラベルが張ってある柱にたてどいセットを取り付けますと、表示が見えなくなります。たてどいセットの取付けがない面に表示ラベルを向けてください。

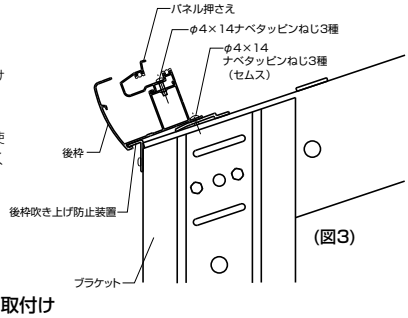


(図1)

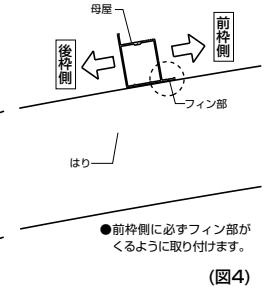
(図2)

3 前枠・母屋・後枠・パネル押さえの取付け

①パネル押さえを後枠に取り付けます。
②後枠吹上げ防止金具に後枠を引掛けた後、後枠をブラケットに取り付けます。(図3参照)
③母屋をはりに取り付けます。
※前枠側にフィン部が向くように取り付けます。(図4参照)
④前枠をはりに取り付けます。
⑤柱移動した場合は前枠・後枠・母屋の使用しない穴に穴ふさぎシールを張ってください。



(図3)

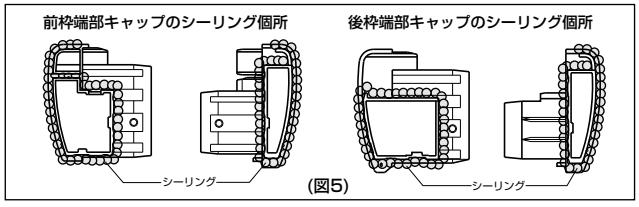


●前枠側に必ずフィン部がくるように取り付けます。

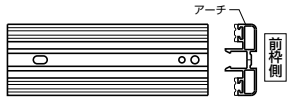
(図4)

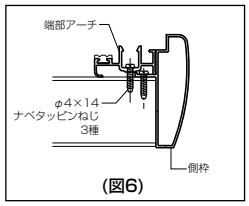
4 側枠・端部アーチ・アーチの取付け

①側枠に前・後枠端部キャップを取り付けます。
※あらかじめ、前・後枠端部キャップにシーリング材を充てんしておいてください。(図5参照)
※側枠には、左右があります。ラベルがある方を、前枠側にしてください。
②前・後枠と母屋に、側枠を取り付けます。その後、端部アーチを側枠の上から取り付けます。
※端部アーチには左右があります。
③アーチを取り付けます。
※アーチには前後の区別がありますので、ご注意ください。右図に示す方が前枠側になります。
④屋根枠まわりの対角・水平出し及び柱の垂直出しを行ってください。



(図5)





(図6)

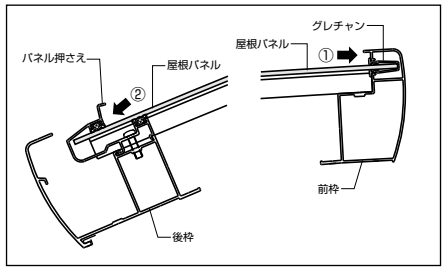
5 屋根パネルの取付け

①屋根パネルの端部にグレチャンを取付け水平に前枠に差し込みます。
②屋根パネルをパネル押さえの透き間に差し込みます。
※アーチ部ののみ込み寸法は、左右均等にしてください。(のみ込み代12mm)

■屋根パネル寸法表

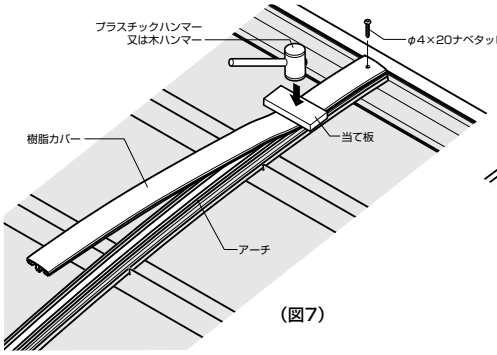
単位mm

サイズ呼称	ℓ	W
18	1791	690
21	2091	
24	2426	
27	2734	
30	3028	

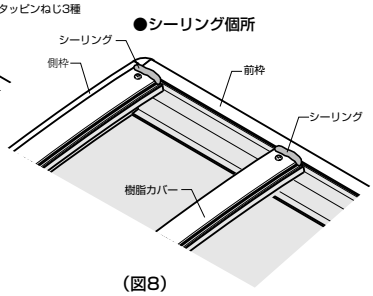


6 樹脂カバーの取付け(図7参照)

①樹脂カバーで屋根パネルを固定します。
②樹脂カバーを取り付ける位置を確認し、樹脂カバーが斜めにカットされている方を前枠の透き間に4mm程差し込みます。
③樹脂カバーを前枠側からたたき込み、約1/3程入れた後、後枠側に樹脂カバーの端を先に入れて、更にたたき込みます。
※樹脂カバーを取り付けた後、前枠側の透き間をシーリングしてください。(図8参照)
※樹脂カバーをたたき込む際、必ず当て板をしてください。
※必ず形材と樹脂カバーのはめ合わせる位置があっていることを確認してください。
※樹脂カバーをたたき込むハンマーは、必ずプラスチックハンマー又は、木ハンマーを使用してください。
※樹脂カバーの中央が少しへこむまでたたき込み、確実に取付けたことを確認してください。



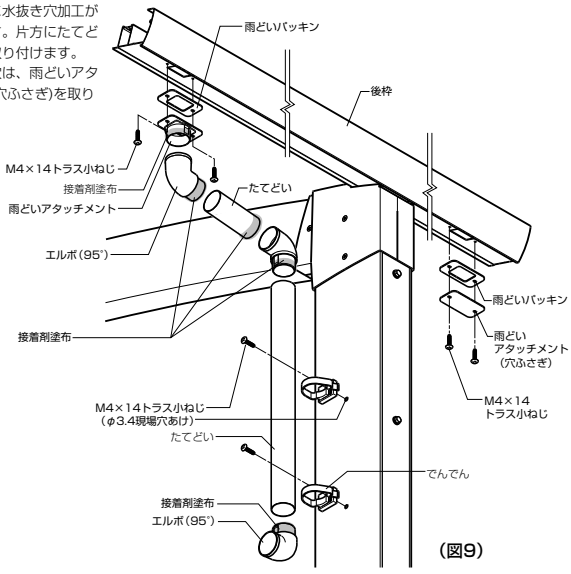
(図7)



(図8)

7 たてどいセットの取付け（図9参照）

①後枠の両端に水抜き穴加工がしてあります。片方にたてどいセットを取り付けます。
②もう一方の穴は、雨どいアタッチメント(穴ふさぎ)を取り付けます。



(図9)

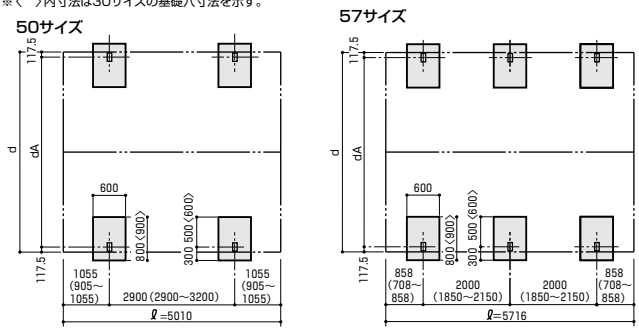
■M合掌の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

※ワイドタイプの基礎の位置は、『ワイド棟木セット』に同梱の取付け説明書を参照してください。

■墨出し位置
※(　)内寸法は柱移動範囲を示す。
※〈　〉内寸法は30サイズの基礎穴寸法を示す。



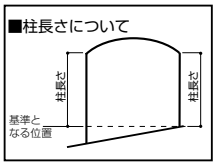
単位mm

サイズ呼称	d	dA
24-24	4827	4592
27-27	5437	5202
30-30	6020	5785

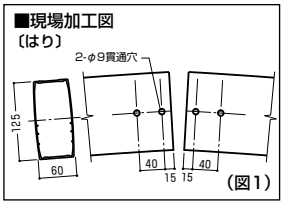
2 本体の組立て

①組み立て前に、はりの前枠側を現場加工してください。(図1参照)
②柱・はりを組み立てて建て込み、はりとはりをはり接続金具で接続します。(図2参照)
③M合掌カバーをはり接続金具の上にのせた後、前枠・母屋・後枠・側枠を本体に取り付けます。(図3参照)
④M合掌棟木、M合掌棟木キャップをそれぞれ取り付けます。(図4・5参照)
※M合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。
※基礎となる位置からの柱長さを同じにしてください。長さが違う場合、合掌棟木に水が溜まり漏水するおそれがあります。

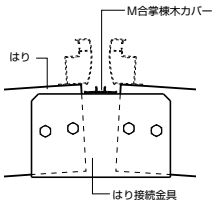
■柱長さについて



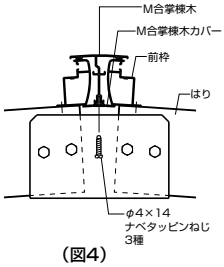
■現場加工図
〔はり〕



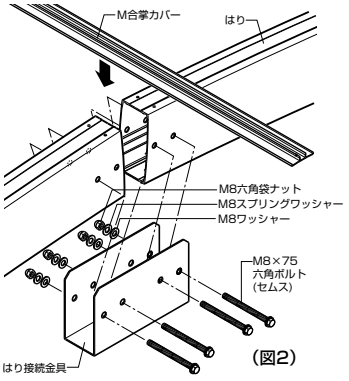
(図1)



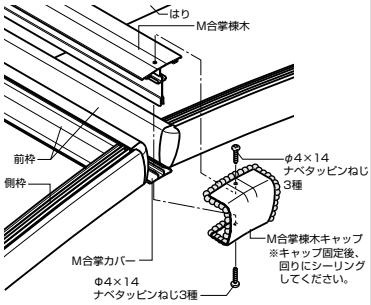
(図3)



(図4)



(図2)



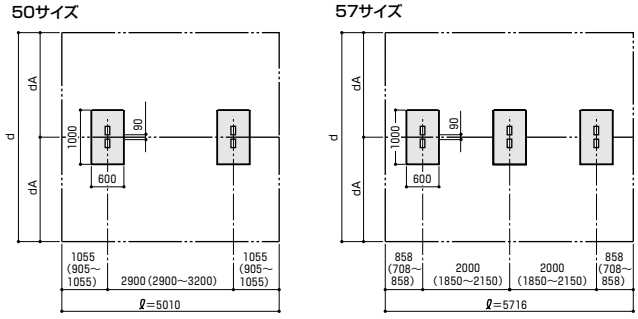
(図5)

■Y合掌の施工手順

1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

■墨出し位置



単位mm

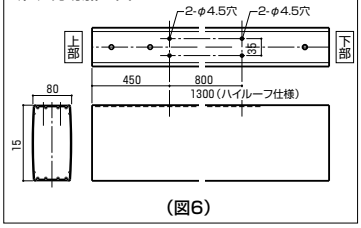
サイズ呼称	d	dA
24-24	4817	2408.5
27-27	5427	2713.5
30-30	6010	3005

※(　)内寸法は柱移動範囲を示す。

2 本体の組立て

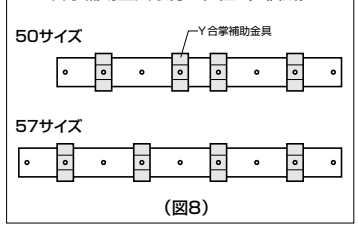
①組立て前に柱を現場加工してください。(図6参照)
②柱にY合掌スペーサーを取り付け、柱を接続して建て込みます。(図7参照)
③柱、はり、前枠・母屋・後枠・側枠を組み立てます。
④Y合掌棟木・Y合掌カバー・Y合掌棟木キャップ・Y合掌補助金具をそれぞれ取り付けます。(図8・9参照)
※Y合掌部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

〔柱〕現場加工図

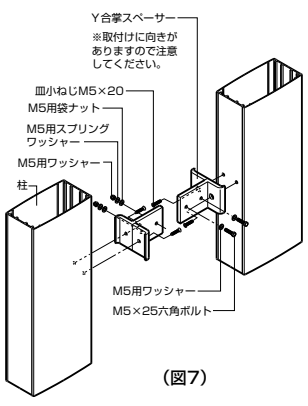


(図6)

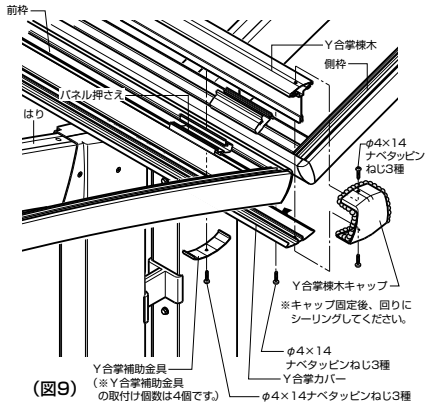
■Y合掌補助金具取付け位置（4個所）



(図8)



(図7)



(図9)

■縦連棟の施工手順

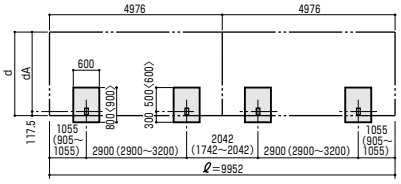
1 基礎の施工

●柱埋込み穴の位置を出し、柱基礎穴を掘り込みます。
※基礎構造については、基本タイプを参照してください。

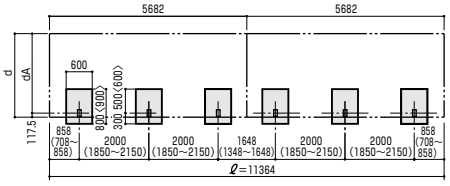
■墨出し位置

※(　)内寸法は柱移動範囲を示す。
※〈　〉内寸法は30サイズの基礎穴寸法を示す。

50サイズ+50サイズ



57サイズ+57サイズ



単位mm

サイズ呼称	d	dA
18	1777	1660
21	2073	1955
24	2403	1955
27	2709	2591.5
30	3000	2882.5

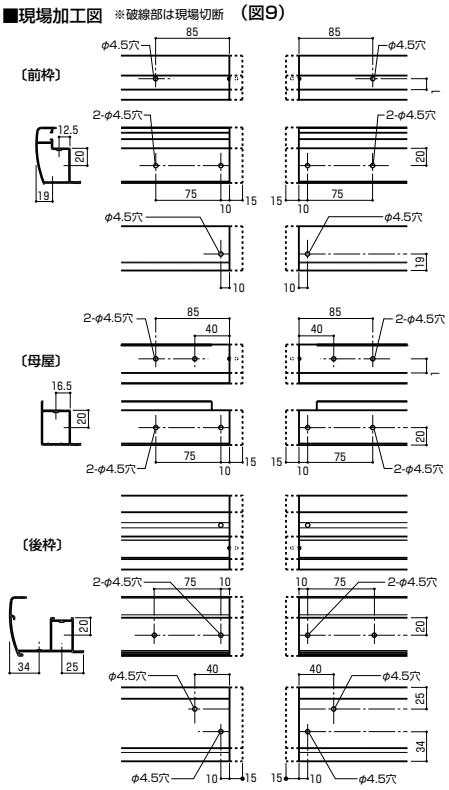
2 本体の組立て

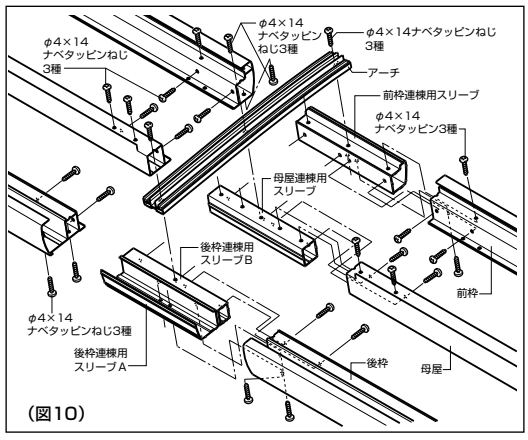
①組立て前に、前枠・母屋・後枠の連棟側を現場加工してください。(図9参照)
②連棟部分を組み立てます。(図10参照)
※連棟部分にシーリング材を充てんし、連棟スリーブ・前枠・母屋・後枠をそれぞれ接続します。(図11参照)
※連棟部分以外の組立ては、基本タイプを参照してください。

3 M合掌・Y合掌の縦連棟

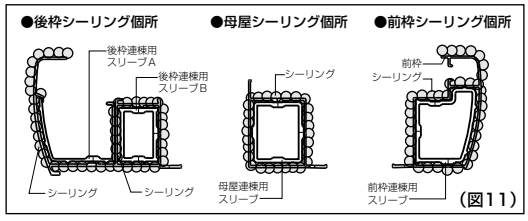
①組立て前に、合掌棟木及び合掌カバーの連棟側を現場加工してください。(図12参照)
②合掌棟木及び合掌カバーの接続部分に、縦連棟合掌カバー上・下を取り付けます。(図13参照)
※連棟部以外の組立ては、M,Y合掌の施工手順を参照してください。

■現場加工図 ※破線部は現場切断 (図9)



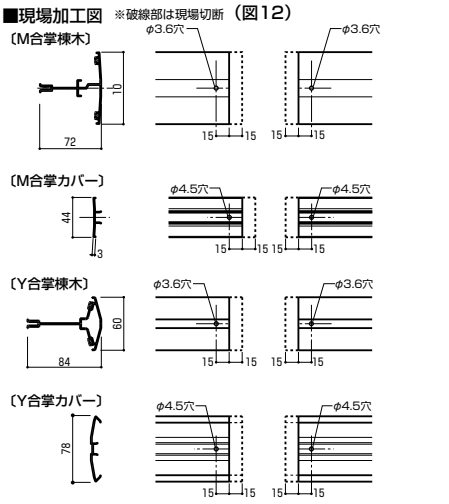


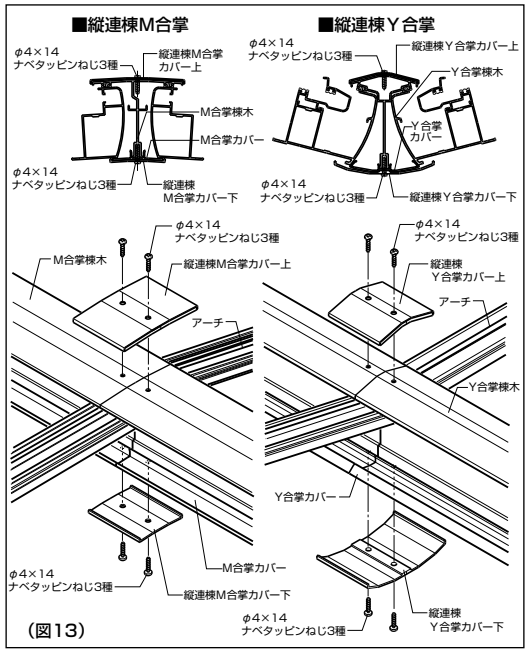
(図10)



(図11)

■現場加工図 ※破線部は現場切断 (図12)

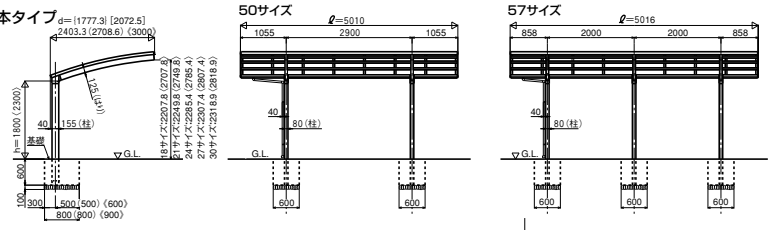




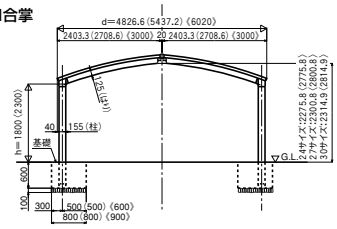
(図13)

■納まり参考図

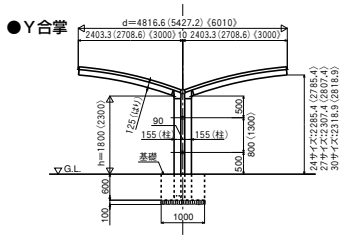
●基本タイプ



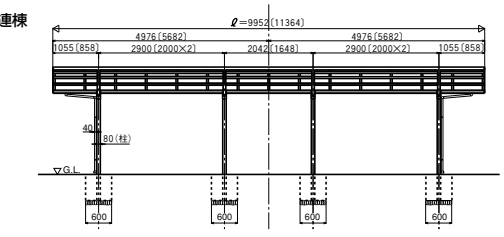
●M合掌

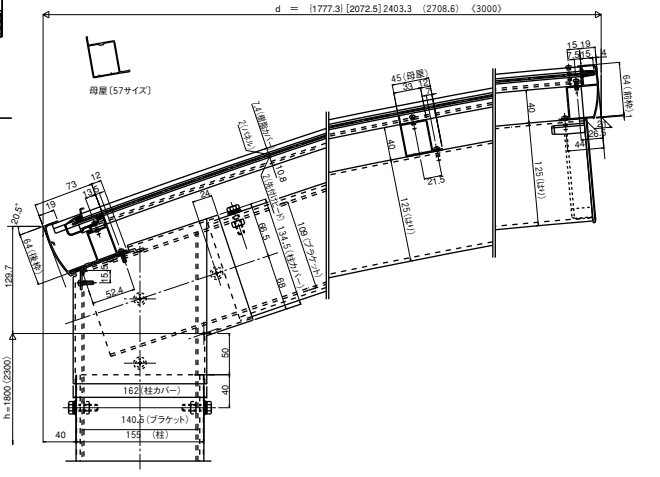


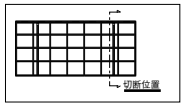
●Y合掌



●縦連棟







※1.図はd=24サイズを示し、d=18サイズは[　]、21サイズは[　]、27サイズは(　)、30サイズは〈　〉内に示す。
※2.図は ℓ=50サイズを示し
ℓ=57サイズは〔　〕内に示す。
※3.図はh=18サイズを示す。
ハイルーフ柱仕様は(　)に示す。
※4.18サイズは母屋2本仕様となります。